3. 一橋家家臣
京で武士に取り立てられる

挙兵計画の嫌疑から逃れるため、栄一は渋沢喜作とともに京へ出奔。そこで以前から親交のあった一橋家用人の平岡円四郎に推挙されて、一橋家の家臣に取り立てられます。元治元年(1864)栄一25歳の時のことです。

一橋慶喜に目通りを許された際、栄一は幕府に未来はないこと、徳川家を守るためには天下の志士を集めるべきこと等を進言したといいます。

同家では農兵の取り立てや財政の立て直しに取り組み、その能力を評価されました。

一橋 慶喜 (1837-1913)

水戸徳川家に生まれ、後に一橋家を相続。慶応2年(1866)将軍家茂の死去を受けて、徳川宗家を相続し、第15代将軍に就任した。

栄一は大政奉還後も慶喜に忠誠を尽くし、その復権に尽力した。

「徳川慶喜公伝」より　松平文庫M289-49(当館保管)